

医療DX推進と安全な医療への貢献を

上田 克彦

公益社団法人日本診療放射線技師会 会長

2025年の新春を迎え、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

平素は本会事業にご協力いただき、心から感謝申し上げます。本年も昨年同様にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は「JART Vision 2040」に基づき、診療放射線技師の役割拡大に向けたさまざまな取り組みが進められました。タスク・シフト/シェアの推進、e-ラーニングの無料化、国際連携の強化など、多くの成果を上げることができました。会員の皆さまの積極的な活動に心より感謝申し上げます。

さて、年頭に当たり、本会が取り組む事業についていくつか述べたいと思います。

近年、医療分野におけるAI技術の進歩は目覚ましく、画像診断や放射線治療においてもAIの活用が期待されています。本会は、情報技術に関する最新情報の提供、教育研修の充実、医療情報の安全管理に対する議論などを通して、会員の皆さまが医療DXを推進できるよう支援してまいります。

放射線技術の進歩に伴い、医療被ばくの適正化はますます重要な課題となっています。医療放射線の安全利用のみならず、職業被ばくの低減についても貢献できるようにし、放射線の安全利用の啓発を進めます。一方、正しい放射線の知識普及においては、文部科学省認定の講師育成と活用を推進したいと思います。生殖腺防護のための鉛シールドの廃止については、本年度内に関係学会等と共同声明文を発出したいと思います。

医療の高度化・複雑化が進む中、多職種連携の重要性はますます高まっています。本会は、医療関係職種団体との連携を強化し、チーム医療の一員として診療放射線技師がより一層活躍できる環境づくりを目指します。

国際的な医療連携が加速する中、診療放射線技師にも国際的な視点が求められています。本会は、海外の放射線技師団体との交流、国際的な研修企画への参加支援などを通して、国際的な視野を持つ診療放射線技師の育成に力を入れてまいります。

本会は、会員の皆さまにとってより魅力的な組織となるよう、会員サービスの向上に努めてまいります。e-ラーニングコンテンツの拡充、会員同士の情報交換の場の提供、学術大会の充実など、さまざまな取り組みを通して、会員の皆さまのニーズに応えてまいります。

本会は、会員の皆さまの声に耳を傾け、2040年、そしてその先を見据えて常に時代の変化に対応しながら、診療放射線技師の社会貢献と地位向上の未来を切り開いてまいります。本年も、会員の皆さまにとって実りある一年となりますよう心より願い、新年のごあいさつとさせていただきます。

